

平成二十四年(二〇二二年) 八月三日 天孫降臨

神から人へ、人から神へ。

神の教えは尊く、深く、人の知り得ぬことをも教え、人のなし得ぬことをも興す。

なれば人は、太古より、神の興せる仕組みに従い、ただに神に委ねるのみ。

神の力に畏れを致し、神の威徳に頭を垂れる。それが人の、あるべき姿、生き方なり。

さにて古代の神話伝承、そこには神の偉業が記され、

後の者への警鐘鳴らし、人の心を失わせぬため、人の生くべき道 踏み外ささぬため、古代の人は 知恵を集めし。

さにて本日、天孫降臨、そこに込められし 意味を伝えむ。

太古の昔、地上世界は、人なるものの まだ生れぬ地に、先ずは神が降り立ちて、人なるものを生み出すための、諸事万端を 整え始む。生き物たちが先ずは榮えて、自然の繁れる地を作れり。

自然の循環、運行整え、自然の恵みを豊かに実らす、豊饒の地となし、整えり。

その後 神は、初めの人を、この世に生きるに困らぬように、賢き脳と 心を備わせ、神の御魂を分かちたり。

人にことばの働き教え、言霊の持つ力を示さる。

そにて人は、自ら努め、この世に神の国を映せり。

なれどやがて人は争い、持てる者と持たざる者、支配する者される者、奪い争いの世となれり。

そを見し神は、世の混乱を、治めるための神を遣わせ、地上を統べる み役与えし。

地上に降りる、そのために、形は人の肉体なれど、神の願いを託されて、この世を神の光で満たす、尊きみ役の者を降ろせし。

さにて神は地上に降り立ち、神の願いを人に説き、人たる者の生きるべき 努めるべきを 教え伝えし。

人は畏れ敬いて、神の代わりと現れしを、天皇と崇め、拝み親しむ。

天皇は神の代わりとして、この世の乱れを治めつつ、祈りを人に広めつつ、

神と人との間に立ちて、人の曲事、過ちを、正し、導き、慈しみ。

さにてこの世は安定し、人は天皇に素直に従い、この世の幸を樂しめり。

神と人とのあるべき姿は、その後永く、変わるることなし。

天皇は人の中心となり、神人共に等しく仕え、人の榮えと富を祈り、

人は天皇をかしこみ戴き、神の恵みに感謝を捧げ、人たる幸を祝ひ、  
天孫降臨、そは人が、神を迎える心なり。

人は神を待ち望み、神の子として生きるを喜び、

その始まりを讃え祀りて、後の世までも語り継ぐため、

国の榮えて、絶えぬよう、人の心の乱れぬよう、尊き始めを記し遺せり。

神は人の姿を借りて、恒久平和を守らむために、代々日本の天皇となり、

世界のために、地球のために、祈りを欠かさずことなし。

なれば人は神話を忘るな。

神の国たることを忘るな。

古代の人の労苦を忘るな。

今あることの意味を忘るな。

全ては神話の中にあり。

日本国たる意味を伝えし、正しき歴史を忘ることなく、御魂の奥にて神話を読めよ。

さにて終わる。